39
白地霞に鶴松梅楓模様子ども着　苧麻
一九世紀　沖縄県立博物館・美術館

39
しろじかすみ　つるまつうめかえでもよう
白地霞に鶴松梅楓模様子ども着

苧麻、両面染、大模様－大柄、白地型
19世紀
丈53.0×裄29.0 cm
沖縄県立博物館・美術館

Bingata children's wear with design of mist with crane, pine, plum, maple patterns on white ground, ramie
19th century
53.0 x 29.0 cm
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

反物の布一枚巾で後身頃が仕立てられている。このような子ども着は一つ身と言われ、乳幼児が着用する。模様は白地型で、鶴と松を霞にのせ、梅と楓を添えている。国宝・琉球国王尚家関係資料にある紅型衣裳に類似する模様である。この作品は、尚家資料とは、布素材が異なり、配色や地色も違うが、苧麻の素材の白さが模様を引き立たせている。鶴の模様が背中で上下に反転しており、おそらく、ここが肩山であったと思われる。大人の衣裳を子ども用に仕立て直されている。この子ども着は、身分の高い家柄の子弟が身につけたものである。　(YI)

108
浅地竹鉄線模様子ども着　苧麻
一九世紀　沖縄県立博物館・美術館

108
あさじたけてつせんもよう
浅地竹鉄線模様子ども着

苧麻、両面染、大模様－大柄、白地型
19世紀
丈77.0×裄41.0 cm
沖縄県立博物館・美術館

Bingata children's wear with design of bamboo, clematis patterns on light indigo ground, ramie
19th century
77.0 x 41.0 cm
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

紅型で染めた子ども着が、幾例かみられる。紅型を身につけられる人は限られており、士族や富裕層の子弟にしか求めることが出来ないものであった。袖口の小さな小袖と、袖口の大きく開いた振袖の二つのタイプが見られる。この衣裳は小袖に仕立てられている。白地型紙で模様を染め藍で地染めされており、竹の笹の葉が風に揺らぐように見える涼しげな作品である。　(YI)